

片行老客題

K. 510

数理解析研究所講究録 25

実験計画法研究会報告集



京都大学数理解析研究所

1967年5月

目 次

1. リレーションシップ代数の構成法からみた実験計画法	1
広島大 理 山本純恭	
2. Relationship algebra of (partially) balanced block designs with two unequal block sizes	38
大阪市大商 石井吾郎	
3. ブロックデザインの無作為化について	43
日本大生産工 小川潤次郎	
4. Random combined fractional factorial design に関する注意..	53
日本大生産工 宮川 強	
5. アソシエーション代数の系統的構成方法とその応用	80
広島大 理 山本純恭	
金沢大 理 藤井淑夫	
広島大 理 浜田 昇	
6. 有限幾何と実験計画	93
広島大 理 山本純恭	
海上保大 福田悌次郎	
広島大 理 浜田 昇	
7. 二水準4入型直交表における交互作用の問題	105
東京大 経 竹内 啓	

8.	幾何学的 BIBD の construction について	115
	海上保大 福田悌次郎	
9.	Association scheme の composition	130
	和歌山医大 楠本熊一	
10.	BIBD の construction について	146
	広島大 理 浜田 昇	
11.	或種のブロック計画の不存在について	161
	日本大生産工 小川潤次郎	
12.	幾何学的 association scheme とその部分要因配置計画への 応用について	165
	金沢大 理 藤井淑夫	
13.	直交表による fractional factorial design のわりつけ ..	192
	農技研 奥野忠一	
14.	Randomized design の理論について	212
	東京大 経 竹内 啓	
15.	二元配置実験に於てセルに於ける繰返し数が等しくない場合の 解析について	221
	東京大 工 広津千尋	
16.	要因計画の模型と分散分析	240
	広島大 理 山本純恭	
	広島大 理 藤越康祝	